



NO.876

2012.7.22

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F 四三三・四四五七

衆議院選北海道比例区

はたやま予定候補が 網走入り

7月12日

はたやま和也衆議院選北海道比例区予定候補と菅原まこと12区予定候補が、宣伝カーで網走に入りました。ベシク橋北店前とベシク駒場店前で街頭演説を行いました。

はたやま比例区予定候補は、民主党野田政権が、強引に進めている消費税増税について、国民の6割が反対しているのに、マニフェストでやらないといっていた消費税増税を政治生命をかけてやるのは、どういうことか。2009年の総選挙のマニフェストはなんだったのか。また、衆議院での消費税増税と社会保障の問題で



は、突然、自民・公明と密室談合し、まともな審議もしないで「数の力」で決めてしまうなど許されぬ。国民の願いを裏切った民主党に、多くの国民は怒っている。さらに、原発の問題でも厳しく批判し、TPPは地域を破壊すると反対を表明。

日本共産党は、大型開発事業の削減や大企業への行過ぎた減税を改め、富裕層へは利益に応じた税の負担を求めると述べ、消費税に頼らない別の道があると述べ、雇用では、賃金の引き上げや非正規雇用ではなく正規雇用が当たり前の社会にして経済の活性化を図ることを力強く訴えました。

菅原まこと

12区予定候補の訴え

菅原まこと12区予定候補は、民主党政権への国民の怒りと自民・公明の批判を投げかけ「北海道は自然エネルギーの宝庫であり、エネルギーの確保と雇用を拡大してオホーツク・宗谷を元気にしたい。アメリカと財界言いなりの政治では国民の暮らしは守れない」と強く訴えました。街頭演説を終了した後、網走タイムズ社を訪問し、「消費税に頼らない別の道があります」の提言を示しながら日本共産党の政策と候補者としての決意を述べました。

松浦奮戦も

政府は16日、将来のエネルギー政策に関する3回目の国民の意見聴取会を名古屋市で開きました。

前日の仙台市での聴取会に続き、電力会社の社員を名乗る男性が、原発を擁護する意見を表明。会場から「やらせだ」「回し者」といった批判が飛びました。聴取会では、2030年の原発依存度を0%、15%、20%、25%とする政府が示した3つの選択肢について、それぞれ3人、計9人が賛成理由を説明するもの。

中部電力社員と自己紹介した男性は、電力の安定供給と経済への影響を重視する立場から原発の必要性を主張。また、福島第1原発事故に関し「放射能の影響で亡くなった人はいない」と述べ、会場から「ウソをつけ」などの声が上がりました。

国民の声を聞く場に、電力会社の社員が来て意見を述べると許されません。政府による「やらせ」といわれても仕方がありません。

いっせ東奔西走

「ふるさとを奪われた怒り、すべてを奪ったうえに国民の声を聞こうとしない電力会社と政府は許されない！」と福島からの参加者が切々と訴えた東京での「さよなら原発集会」は17万人を集め、同時に日本列島でこれに連帯する様々な催しとデモが取り組まれ「原発ノー」が日本中にとどろきました。

毎週金曜日夜、首相官邸前で開かれる「再稼働反対」のツイッター・デモでの国民の声は、大手メディアの全く無視するなか、勢いを得て「さよなら原発集会」にたどりつき、その声の大きさにさすがに無視をできず大手メディアが軒並み大きく報道しました。

やつと当たり前の報道に戻ったのですが、根拠のない「安全神話」ふりまいての再稼働強行への怒りの声は日々増え続けるでしょう。その一方、政府のエネルギー・環境会議は将来のエネルギー政策に関する意見聴取会を連休中、3ヶ所で開きましたが、電力関係者が抽選で選ばれたと言って、連日原発推進の立場で原発を擁護する意見を表明。「やらせだ！」「回し者」といった厳しい批判にさらされました。細野担当相は改善を示唆しましたが、やらせ承知の厚顔無恥内閣は退場しかありません。

流水

Nさんの息子は、仕事に就いてから10日目に戻ってきた。一緒に就職した10人の仲間が、2、3日目から

次々に辞め、自分は頑張っていたが、とうとう9番目に辞職した。午前7時から午後7時までの間、昼食の時間やトイレタイムも慌しく、寮に戻って夕食をとり、リラックスタイムと思っても、明日のために床に入る。暑さのために眠りは浅く、目覚めたらもう出勤。時には嫌がらせも我慢して働いた。それは眠りにプラスされ気が持ちが折れそうになって来た▼息子さんは、大学卒業後、札幌に10年ほど勤めていた。納得する仕事ではなかったため、親元に帰った。そして、今の状況に見合う資格をいくつか習得し、インターネットで探した会社だった▼Nさんは、息子が発つとき、「体を壊すまで頑張らないこと、辛いことが続いて改善されないなら、戻ってもいい。」と、旅費も持たせたことは、親としては当然のことだったと思う▼今の職場に、人が「ひと」を大切に育てる営みがあるのだろうか▼手塚治虫が、アトムを介して人としての成長を機器社会に進むほど大切にされるべきと警告して来たが残念である▼先日の「内部被ばくを生き抜く」(上映)後、鎌中&野呂トークで、「子どものため、今を変えねば」に、会場は共感の拍手でいっぱいになった。(て)